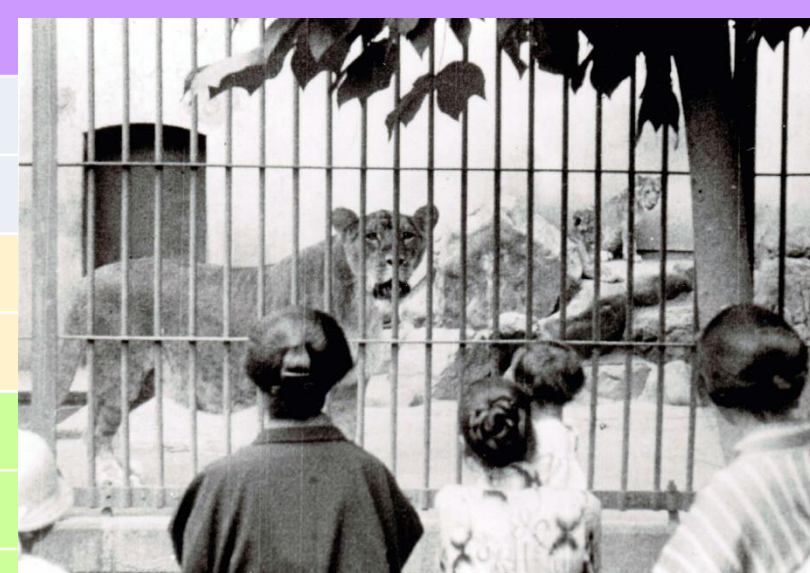
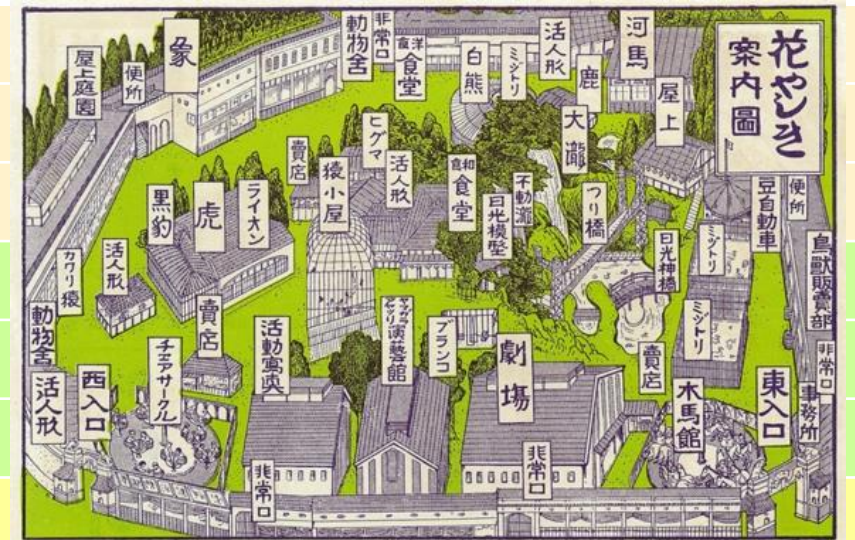
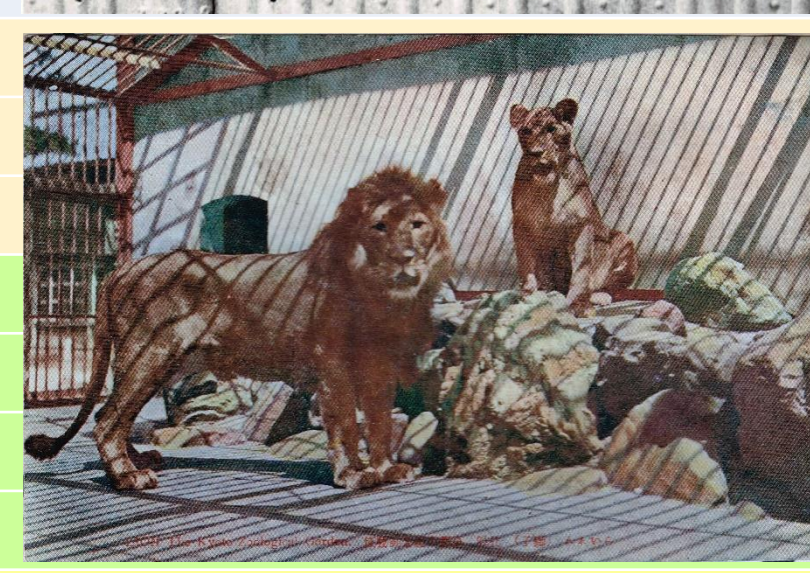


京都市動物園の生まれの系譜

No.	性	愛称	受入	区分	備考	払出	区分	備考
8	M		1911/12/19	出生	No.2F x No.3M	1913/4/5	売却	松本甚吉 1300円
9	F		1911/12/19	出生	No.2F x No.3M	1913/7/20	死亡	
10	F	松風	1911/12/19	出生	No.2F x No.3M	1928/2/20	売却	高橋良作, 昭和3年, 500円
11	M		1914/3/25	出生	No.2F x No.3M	1914/11/11	売却	大阪動物園 ペア2500円
12	F		1914/3/25	出生	No.2F x No.3M	1914/11/11	売却	大阪動物園
13	F		1914/3/25	出生	No.2F x No.3M	1915/2/28	売却	中田和平(井出行), 630円
14	M		1915/11/22	出生	No.2F x No.3M	1917/3/10	売却	中田和平(満州行), 1000円
15	M		1915/11/22	出生	No.2F x No.3M	1917/4/8	交換	中田和平と交換(ダチョウ、ハイエナ各1), 花屋敷へ
16	F		1916/9/18	出生	No.10F x No.7M 兄妹	1917/6/28	売却	中田和平, 550円, 名古屋動物園
17	F		1916/9/18	出生	No.10F x No.7M 兄妹	1917/7/13	売却	中田和平, 550円, 花やしき動物園
18	F		1916/9/18	出生	No.10F x No.7M 兄妹	1917/10/28	売却	中田和平, 550円, 上海行
19	F		1917/10/11	出生	No.2F x No.3M	1918/12/20	交換	中田和平と交換(豹、白狸、カンガルー各1), 花屋敷へ
20	F		1917/10/11	出生	No.2F x No.3M	1918/12/12	死亡	
21	M		1918/7/1	出生	No.10F x No.7M 兄妹	1919/6/14	売却	大阪動物園へ, 1200円
22	M	金剛	1918/7/1	出生	No.10F x No.7M 兄妹	1927/7/1	売却	台北ZOO, 昭和2年10月20日
23	M	五十鈴	1919/9/30	出生	No.10F x No.3M 父娘	1920/6/30	献納	宮内省献納, 上野動物園で飼育, 繁殖
24	F	常夏	1919/9/30	出生	No.10F x No.3M 父娘	1920/6/30	献納	宮内省献納, 上野動物園で飼育, 繁殖
25	M	白菊	1920/10/23	出生	No.10F x No.22M 母子	1921/6/20	売却	松本甚吉 1300円, 名古屋動物園
26	M	小桜	1920/10/23	出生	No.10F x No.22M 母子	1932/6/1	他	脱檻のため銃殺
27	F	花橘	1920/10/23	出生	No.10F x No.22M 母子	1930/7/2	死亡	埋却
28	F	初霞	1922/2/23	出生	No.10F x No.22M 母子	1923/3/30	売却	中田和平, 550円, 東京東洋動物園協会
29	F	朧月	1922/2/23	出生	No.10F x No.22M 母子	1923/3/30	売却	中田和平, 550円, 有竹巡回動物園
30	F	春雨	1922/2/23	出生	No.10F x No.22M 母子	1923/3/30	売却	中田和平, 550円, 長光巡回動物園
31	F		1923/7/20	出生	No.27F x No.26M 兄妹	1923/7/20	死亡	誕生後まもなく
32	M	天龍	1924/1/4	出生	No.10F x No.22M 母子	1924/10/15	売却	有田洋行, 500円, 宝塚動物園
33	F	霧島	1924/1/4	出生	No.10F x No.22M 母子	1924/10/15	売却	有田洋行, 500円, 宝塚動物園
34	F	皐月	1924/1/4	出生	No.10F x No.22M 母子	1924/10/15	売却	有田洋行, 500円, 中村巡回動物園
35	F	初雪	1925/11/22	出生	No.10F x No.22M 母子	1935/7/11	死亡	馬疹, 潰瘍性関節炎
36	M	緋緘	1927/3/18	出生	No.27F x No.26M 兄妹	1928/2/20	売却	羽田謙次郎, 熊本動物園, ペア1000円
37	F	篝火	1927/3/18	出生	No.27F x No.26M 兄妹	1928/2/20	売却	羽田謙次郎, 熊本動物園
38	F	夕虹	1927/3/18	出生	No.27F x No.26M 兄妹	1928/4/16	売却	中田和平, 400円, 宝塚動物園
39	M	青龍	1930/5/22	出生	No.27F x No.26M 兄妹	1937/9/25	死亡	胸部腫瘍, 肺結核
40	F	薄雲	1930/5/22	出生	No.27F x No.26M 兄妹	1938/4/13	売却	中田和平, 200円, 名古屋
41	F	若紫	1930/5/22	出生	No.27F x No.26M 兄妹	1933/9/24	売却	九州電気軌道, 400円, 龍田とともに
42	F	朝菊	1930/5/22	出生	No.27F x No.26M 兄妹	1944/3/21	他	軍の命令(薬殺)
43	M	天龍	1931/9/26	出生	No.35F x No.26M 兄妹	1933/2/28	売却	諏訪山動物園, 500円
44	M	龍田	1931/9/26	出生	No.35F x No.26M 兄妹	1933/9/24	売却	九州電気軌道, 500円, 若紫とともに
45	M	玄武	1933/8/30	出生	No.35F x No.39M おばおい	1934/4/12	売却	山陽電気軌道, 2頭で600円
46	F	東雲	1933/8/30	出生	No.35F x No.39M おばおい	1934/4/12	売却	山陽電気軌道
47	F	白露	1933/8/30	出生	No.35F x No.39M おばおい	1936/4/26	交換	香川勇, コクジャク・アメリカオシドリ各1番
48	M	月光	1934/9/6	出生	No.35F x No.39M おばおい	1935/9/25	交換	中田和平, 300円, アフリカ野犬2(各250円)、羚羊1(200円)と3頭
49	F	鈴鹿	1934/9/6	出生	No.35F x No.39M おばおい	1935/9/25	交換	中田和平, 200円
50	F	捨香	1934/9/6	出生	No.35F x No.39M おばおい	1935/9/25	交換	中田和平, 200円
51	M	ダイヤ	1935/8/5	出生	No.42F x No.39M 兄妹	1944/3/19	他	軍の命令(絞殺)
52	F	ルビ	1935/8/5	出生	No.42F x No.39M 兄妹	1937/6/25	交換	中田和平, ニシキヘビ, カワウソ各1, 上海動物園へ, S11Bのオスとともに
53	M		1936/8/5	出生	No.42F x No.39M 兄妹	1937/6/25	交換	中田和平, ニシキヘビ, カワウソ各1, 上海動物園へ, ルビとともに
54	M	比叡	1937/10/8	出生	No.42F x No.39M 兄妹	1940/1/29	売却	中田和平, 500円
55	M		1937/10/8	出生	No.42F x No.39M 兄妹	1944/3/18	他	軍の命令(銃殺)
56	F		1937/10/8	出生	No.42F x No.39M 兄妹	1944/3/18	他	軍の命令(銃殺)



花橘と子(緋緘, 篝火, 夕虹)



ライオンの飼育の歴史は戦争をはさみ前期・後期に分かれ、この個体が、前期最後のライオンとなりました。

1910年(M40)の初繁殖から1937年(S12)まで、ハーゲンベックから購入した血統での繁殖が続いており、計**20回**の出産で**53頭**が誕生しています。当時は、近親交配が行われており、1920年(T9)宮内省に献納し、上野動物園で飼育された「五十鈴」と「常夏」も兄妹で繁殖を進め、良い成績を残しています。また、1933年(S8)に北九州市の到津遊園に売却した「龍田」と「若紫」は、1940年(S15)5回目に3頭を出産をした際、うち1頭が純白に輝く白いライオンであったと記録されています。ただし、1年後に普通の毛色のライオンになったことが、当時の園長の手紙に記されていました。近親交配の影響があったのかもしれませんが。

このような繁殖が進められたのは、動物園が増えていく時代であったことから、ライオンを導入したい園が多かったからと思われます。実際、大阪動物園、熊本動物園、到津遊園には、開業前にライオンが売却されており、各園にとって最初の飼育ライオンが本園で繁殖したライオンだったと思われます。また、名古屋市立舞鶴公園附属動物園(東山動物園の前身)や宝塚動物園にも開業間もない頃に売却されており、売却した記録のある花屋敷動物園では、その後繁殖もしており、1935年(S10)に仙台市動物園に動物を売却していることから、本園の系譜が引き継がれているかもしれません。

なお、本園で、その系譜がその幕を閉じたのは、戦争の影響で、軍から猛獣への殺処分命令が出されたためです。この命令によって、飼育中のライオン4頭を処分(銃殺, 絞殺, 約殺)した記録が残されています。

動物園は時代の社会的背景や利用者の動物園観の影響を受けるため、その時々的情勢への対応が求められます。このことは、それを示す記録であるともいえます。